

旅暦の活用方法 担当:末兼郁二

1. 旅暦データの内容

会員番号、訪問国、出発日、期間

2. 現在の発表内容

(1)MLによる毎月の報告方式

会員よりの報告/担当より確認/追加報告
/確定報告

(利点)会員相互の生きた情報交換

(問題点)プライバシー、煩わしさ

現在の発表内容の続き

(2) ホームページによる報告

会員海外旅行・滞在延日数統計

毎月の洲別会員の滞在傾向を把握

会員専用ページ・会員国別旅暦表

旅行・ステイをしたい国・地域を経験した
会員を見つけることができます。

この表には未帰国者は除かれていますが、直近の情報はMLで把握できます。

3. 会員旅暦の蓄積データー

2007年12月8日現在

申告会員数;91人分

出発年度別には

2004年	13件	475日
2005年	127件	5,397日
2006年	115件	6,270日
2007年	207件	11,248日
2008年	21件	436日
合計	483件	12,371日

4. 今後の活用方法

- (1) 少し時間をかけて2005年から2007年分の旅暦傾向を分析し、会員活動の参考にしたい。
- (2) 2008年以降の扱いをどうするか、この3年分の上乗せとするか、別に切り離すか、切り離すときはどうすべきか等を検討したい。
- (3) この作業はエクセルとか図表作成の勉強のもなるので、パソコン活用の一環と捕らえ、後継者の育成に繋げたい。

